



矢倉沢地域おこし委員会 (南足柄市)

自然体の取組みで大学生と交流



■イノシシが出るような地域をどう活性化する？

矢倉沢地域おこし委員会は、南足柄市から、高齢化と人口減少が進む北足柄地区を活性化しようともちかけられ、2009年に誕生しました。

地元では、「イノシシが出るような地域で活性化は難しい。イノシシ対策が先だ」という意見も多く、当時自治会長だった顧問の植田 勇次さんも困惑しましたが、地域を掘り下げることが喫緊の課題であると思い、取り組み続けてきました。

■委員会が続けたまつりを地元有志が引き継ぐ

手探りで始めた最初の活動が「ざる菊まつり」。神奈川県西部を中心に栽培されているざる菊

(群生して咲く姿がざるを伏せたように見える)を、地域の花グループが荒廃農地を利用して栽培を始めたので、これを全面に出したまつりを開催しました。最大2万人の来場者を集めた祭も、10年続けるとスタッフの高齢化や農家の負担、連作による土壌障がいも出て、いったん終了しました。すると、2019年からは地元の有志が「ざる菊ウィーク」として活動を引き継いでおり、委員会がきつ



一言アドバイス

幅広い年齢層に声をかけ、活動を地域全体に意識してもらうこと。



矢倉沢地域おこし委員会

委員長 杉山 徹さん

成功のコツ

- ・ とりあえずやってみて、問題があればどうできるのか別の方策を考えてみる
- ・ 一人の力に頼らず、共感できる仲間たちと始める
- ・ 自分たちのできる範囲で無理なく続ける

けとなって新しい活動、人のつながりが生まれています。

■学生たちのアイデアにも自然体で対応

3年前の2017年には、南足柄市から「横浜国大と連携して何かできないか」との打診を受けました。

そこで、一般向けに企画したタケノコ掘りに学生が参加したところ好評で、2017年からはみかんもぎ体験を、2018年からはお茶刈りを実施しています。学生たちと意見交換会を開催しアイデアを出してもらいました。そこには、みかんの定

期購買、ジビエ料理、ペンション農泊、温泉復活、農産物ネット販売、足柄茶ケーキ、ご褒美サプライズ配送、等々の自由な発想が並んでいました。

これを形にしていくのが地域おこし委員会のこれからの課題といえるのですが、まずは自分たちのできる範囲で、無理なく続けることが大事だとしています。2019年度から委員長になった杉山 徹さんは、「やらねばならないと固執することなく、ゆるく物事をとらえることにしています。とりあえずやってみて、問題があればどうでき

るのか別の方策を考えてみようと思っています」と肩の力を抜いた自然体で構えています。

都会の大学生とのコラボレーションがどういう形に発展していくのか、楽しい矢倉沢地域おこし委員会の今後です。

